

70th
anniversary

70周年記念誌

70年の歩み

70th
anniversary
PTA

70周年記念誌

70年の歩み



福島県PTA連合会旗

目 次

発刊のことば	1
祝 辞	2
写真で見る県PTA研究大会(県大会)の20年	8
歴代会長紹介	10
第1章 50周年以降20年の歩み	
歴代会長の回想で綴る20年	14
第2章 県PTAの活動	
1. 県PTA躍進の沿革	28
2. 県PTA研究大会の記録	54
3. 県PTA連合会歴代役員一覧	74
4. 県PTA表彰の記録	88
第3章 地区PTA連合会・協議会の歩み～	
◇福島市小中学校PTA連合会	108
◇川俣町PTA連絡協議会	112
◇伊達地区PTA連絡協議会	116
◇安達地方小中学校PTA連合会	120
◇郡山市PTA連合会	124
◇岩瀬地区PTA連合会	128
◇石川郡連合PTA	132
◇田村地方PTA連合会	136
◇西白河PTA連絡協議会	140
◇東白川郡PTA連絡協議会	144
◇会津若松市父母と教師の会連合会	148
◇北会津地区PTA連絡協議会	152
◇耶麻地区小中学校PTA連絡協議会	156
◇両沼地区PTA連絡協議会	160
◇大沼郡連合父母と教師の会	164
◇南会津郡PTA連合会	168
◇相馬地方PTA連絡協議会	172
◇双葉郡PTA連合会	176
◇いわき市PTA連絡協議会	180
第4章 資 料	
1. 福島県PTA連合会の発足	186
2. 福島県PTA研究大会 開催地一覧	195
3. 学校数・児童生徒数・会員数一覧	196
4. 規 約	197
5. 福島県PTA安全互助会の歩み	199
I 時代背景と設立の経緯	199
II 安全互助会補償制度の変遷	200
III 安全互助会加入校数・加入人数の推移	210
IV 学校・PTA活動支援補償制度の変遷	215
V 安全互助会会則	216
VI 安全互助会表彰規定	217
創立70周年記念事業 令和3年度実行委員会名簿	218
編 集 後 記	218
<hr/>	
○記念誌の足跡1	73
○記念誌の足跡2	106
○記念誌の足跡3	184



福島県PTA連合会 創立70周年を迎えて

福島県PTA連合会 会長 平塚 康晴

福島県PTA連合会創立70周年を迎えるにあたり、今日まで本会の発展にご尽力いただきました歴代会長、歴代事務局長をはじめとする諸先輩各位の皆様には深く敬意と感謝を申し上げます。また、日頃より本会事業にご理解、ご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

昭和26年、社会教育関係団体として発足した本会は、以来70有余年、研究大会や研修等の交流活動を通して会員相互の絆を深めながら子どもたちの健全育成を図ることを目的に活動してまいりました。しかし、その間、創立60周年の節目には2011年3月11日に発生した東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故による甚大な被害を鑑み、式典をはじめとした記念事業はすべて中止となるなど、その歩みは決して順風満帆ではありませんでした。そして、現在、一昨年から続いております新型コロナウイルス感染症は、未だ収束の気配を見せず混乱が続いております。

しかし、このような状況でも、私たちは諸先輩が築き上げてきた思いを次の世代へ引き継ぐ責務があります。これからも福島から素晴らしい人材が育つよう努力を重ねる所存であります。これまで以上のご理解とご協力をお願い申し上げます。

近年、ICT等の進展により、私たちの社会は想像を超えた速さで変化してきています。しかし、子どもや家族を愛する心、自分の住んでいる町への愛情などは、いつの時代でも変わらない不易のものです。様々な課題は常に目の前に山積していますが、安心して子育てのできる環境をつくるのは家庭・学校・地域の信頼と連携という基盤があってこそです。また、子どもたちの豊かな教育環境の整備や学校における働き方改革なども、この三者の連携・協力なしには果たし得ないものではないでしょうか。

共に語り、共に学び、共に成長することによって、私たちが絆をさらに深め、愛してやまない子どもたちに笑顔があふれるように、そして、先生方や地域の皆様の笑顔があふれるように、知恵を出し合い力を合わせて活動することができますようご期待申し上げます。

結びに、福島県PTA連合会創立70周年事業に携わった実行委員会の皆様、資料作成等にご尽力いただきました各郡市連P事務局の皆様にご協力をいただきながら記念事業が遂行できましたことに感謝を申し上げ、70周年記念誌発刊のことばとさせていただきます。



70周年を祝して

福島県知事 内堀 雅雄

福島県PTA連合会が創立70周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。結成以来70年の長きにわたり、学校と家庭、地域社会をつなぐ懸け橋として、児童生徒の健全育成や教育環境の改善に御尽力を頂いており、厚く御礼を申し上げます。歴代会長を始め、会員の皆さんのこれまでの御協力と御労苦に対し、深く敬意の意を表します。

震災と原発事故から間もなく11年が経過いたします。この間、避難指示区域が縮小したほか、道路や鉄道などのインフラ復旧、拠点施設の整備進展など、福島の復興は着実に前進しております。

今後は、この10年の歩みを大切にしながら、県民の皆さんに復興が進んでいることを実感していただけるよう、これまでの挑戦を一つ一つ形にしていく必要があります。

また、震災からの復興と福島ならではの地方創生を進めていくためには、「ひと」づくりが極めて重要であります。

県といたしましては、「福島ならではの」教育の充実に向け、画一的な授業から、個別最適化された学びや協働的・探究的な学びへと転換する「学びの変革」により、資質・能力の育成や福島に誇りを持つことができる教育の推進等にしっかりと取り組み、福島の強みをいかしながら、未来を担う子どもたちの育成を進めてまいります。

社会が大きな変革期を迎えている中、貴連合会が果たされる役割は、ますます重要性を増しております。

皆さんにおかれましては、創立70周年を新たな契機とされ、引き続き、児童生徒の健全育成にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、貴連合会のますますの御発展を心からお祈り申し上げ、お祝いの言葉いたします。



お祝いのことば

福島県議会 議長 **渡 辺 義 信**

福島県PTA連合会が創立70周年を迎えられ、その輝かしい足跡を辿る記念誌が発刊されますことを、心からお祝い申し上げます。

貴連合会におかれましては、昭和26年の創立以来、社会経済情勢の変化に直面しながらも、常に子どもたちの健やかな成長を願って、県内各地で熱心なPTA活動を展開されており、このたび創立70周年を迎えられましたことは、誠に喜ばしい限りであります。歴代会長をはじめとする関係の方々のためまぬ御努力に対しまして、深く敬意と感謝を申し上げます。

さて、東日本大震災と原発事故から11年が経過しようとしております。この間、県民の皆様のお努力と、多くの方々の御支援により、本県の復興は着実に前へ進んでおりますが、いまだ復興は途上であり、この先も、前例のない予測困難な状況の中で、復興・創生に向けた様々な課題を乗り越えていかなければなりません。

こうした中で、我々大人たちには、多様な方々と協働しながら、真の復興を成し遂げるための歩みを進めるとともに、その姿を通して、本県の将来を担う子どもたちが持つ個性や能力を伸ばし育てていく責務があると考えております。

そのためには、家庭・学校・地域社会が一層連携し、一丸となって子どもたちを取り巻く諸課題に取り組んでいくことが極めて重要であり、PTAの皆様にご寄せられる期待はますます大きくなっております。

どうか皆様には、創立70周年を新たな契機に、今後とも、子どもたちと学校・家庭・地域をつなぐPTA活動の活性化と、子どもたちの健全な育成に御尽力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、福島県PTA連合会の限りない御発展と、子どもたちの健やかな成長を心から御祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。



お祝いのことば

福島県教育委員会 教育長 鈴木 淳 一

福島県PTA連合会が、創立70周年を迎えられますことに、心からお祝いを申し上げます。

昭和26年の発足以来、家庭・地域と学校の橋渡し役として、地域の教育力向上や教育環境の充実に努められるなど、本県教育の振興と発展に御尽力いただき、厚く御礼申し上げます。

さて、東日本大震災及び原子力発電所事故から10年余りが経過し、本県を取り巻く環境は大きく変わりました。震災の経験や記憶がない子どもたちが増えていく中、福島に生まれ育った子どもたちには、複合災害の事実や復興の歩み、そして福島の現状を自らの言葉で語るができるよう育成していく必要があります。

そのため、県教育委員会では、震災を学ぶ体験活動を推進し、震災関連施設等の訪問や被災者との交流等により、自分の考えをまとめる活動等に取り組んでまいりました。さらに、高校生が震災学習の成果を小中学生や海外の方々に発信・交流する「語り部」活動を支援するなど、震災の記憶と教訓の継承に取り組んでいるところです。

こうした中、この度策定した第7次福島県総合教育計画では、地域そのものをフィールドとし、福島の課題や福島の良さをテーマに学ぶことにより、ふるさとに誇りを持つ「福島ならではの」教育、そして、一方通行の画一的な授業から個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びへと変革していく「学びの変革」を掲げました。「福島ならではの」教育では、地域に根ざした学校運営が必要であり、「学びの変革」の推進においても、PTAの皆様の積極的な参加と、緊密な連携が極めて重要であると考えます。今後とも子どもたちの教育のために、一層の御理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、貴連合会がこれまでの輝かしい実績の下、ますます発展されますよう心からお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。



祝 辞

福島県小学校長会 会長 佐藤 秀美

福島県PTA連合会が発足以来70年の活動の歴史を刻み、ここにめでたく「70周年記念誌」を発刊されますことは誠に意義深く、心よりお祝いを申し上げます。

貴連合会は、昭和26年の結成以来今日に至るまで、激動する社会情勢や子どもを取り巻く環境の変化など、それぞれの時代における数多の課題に真摯に向き合い、子どもたちの健全な育成に多大なる功績をあげてこられました。県内各単P等との連携を密にして子どもや学校を支え続けてくださる貴連合会の存在は、私たち校長にとっても大きな支えであり、心より敬意を表しますとともに感謝を申し上げます。

さて、東日本大震災とそれに伴う原子力発電所事故から10年余りが経過しました。復興は着実にその歩みを進めています。今なおふるさとでの学校再開が果たせない地区や極少数での教育活動を余儀なくされている学校があります。根強い風評と急速に進む風化もまた重い課題となっています。そして、世界中で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症は、未だ収束の見通しが立たず、学校教育にも甚大な影響を与えています。各学校は、新たな生活様式の下、子どもたちの健康と安全を守りつつ、いかに教育の質を保障していくかという困難な課題に直面し、試行錯誤しながら日々の教育活動を行っているのが実状です。いずれも現在進行形の大きな課題ですが、私たちは新学習指導要領に謳われている「よりよい学校教育を通してよりよい社会を創る」という理念を学校と社会が共有し、予測困難な時代を生きる子どもたちに育むべき資質・能力を確実に身に付けさせなければなりません。

学力や体力の向上、いじめや不登校の問題、学校における働き方改革やGIGAスクール構想の推進など、課題は山積しておりますが、これらの課題を克服するためには家庭や地域の協力が不可欠であり、その橋渡し役としてのPTAの役割は極めて重要です。より一層の御理解と御尽力をお願いする次第です。

結びに、貴連合会の更なる御発展と関係各位の御健勝を祈念申し上げ、祝辞といたします。



祝 辞

福島県中学校長会 会長 佐藤 浩 哉

福島県PTA連合会が、ここにめでたく創立70周年を迎えられ、「70周年記念誌」を刊行されますこと、心からお祝い申し上げます。

貴連合会が設立された昭和26年以来、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化してまいりました。特に、東日本大震災と原子力発電所事故、AIの台頭による第4次産業革命、新型コロナウイルス感染症の影響などによる劇的な社会変化が起きている現在、「70周年記念誌」の刊行は福島県PTA連合会が幾多の困難を乗り越えられ、多大な成果をあげてこられた素晴らしい足跡を後世に伝える特別の意味を持つものであると感慨無量であります。

急速な社会の変化の中にあっても、いつの時にも、県内郡市PTA連合会との連絡を緊密にされ、健全な人間形成を果たすための教育諸条件の整備・充実と子どもたちの幸福の実現のために、輝かしい成果をあげてこられましたことは、ひとえに、これまで貴連合会を強い思いで牽引され、また支えてこられました歴代の会長様はじめ役員の皆様、関係された皆様の並々ならぬご努力の賜であり、心より敬意を表しますとともに感謝を申し上げます。

さて、中学校では今年度から学習指導要領が全面実施となり、よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会が共有する「社会に開かれた教育課程」の実現を目指すことが重要となっております。このことから、学校は今まで以上に、地域の貴重な人材や資源との連携を強化しなければなりません。今後さらにPTAの皆様のお力添えをいただくことになると思います。また、現在、学校では、子どもたちのスマホ、ゲーム依存等による睡眠不足から派生する不登校はじめ、SNSに係るトラブル・いじめなど多くの問題に対応している状況です。子どもの健全な育成のために、学校、家庭、そして地域がそれぞれの役割を再確認し、より一層協力し合うためにも、今後とも貴連合会にご尽力を賜りたいと思っております。

結びに、貴連合会のさらなるご発展と関係される皆様の益々のご健勝を祈念いたしまして、祝辞といたします。



祝 辞

公益社団法人日本PTA全国協議会

会長 清水 敬 介

福島県PTA連合会が創立70周年を迎えられますことに心よりお祝い申し上げます。諸先輩及び関係各位の日々のご尽力により今日のご隆盛を見ましたことと拝察し、深甚なる敬意と謝意を表します。

我が国にPTAという名称の団体が発足したのは、多くの方がご存知の通り戦後まもなくでしたが、それ以前より多くの学校にて保護者を中心とした子どもたちを見守る任意団体が存在していたと、弊会の記録誌には残っております。いつの時代も、子どもたちのためにより良い教育環境をと願う気持ちは変わることなく多くの保護者と地域の方々であり、PTAという形を通じてその思いがより広く共有され活発な活動につながっていったことと考えます。

2020年初春から全世界に広がった新型コロナウイルス感染症のため、私たちの毎日とはこれまでとは違う生活様式に様変わりしてしまいました。子どもたちの学びの環境も、全国のPTA活動も、従来とは違う形となり、感染拡大させないために多くの方が様々に苦慮され、今もなお困難な状況が続いています。弊会としましても、例年とは違う形での活動を余儀なくされておりますが、このような事態であるからこそ、広く会員の皆様からのご意見を頂戴できるよう模索し、日本最大の社会教育関係団体として、大切な子どもたちの未来のために歩みを止めないよう活動を続けております。

政府においては、GIGAスクール構想に基づくICTの活用や学校における働き方改革の推進等を踏まえ、“劇的に変化する時代で育むべき資質・能力”という視点で「令和の日本型学校教育」の構築についての提言が中央教育審議会から出され、新たな教育のあり方について活発に議論されております。子どもたちの学びの時間は失われたら戻ることなく、学校教育への関心はこのコロナ禍においても変わらぬものでなければなりません。家庭・学校・地域の懸け橋となるPTAには多くの期待が寄せられており、私たちは当事者としてどのように関わるか、その姿勢が問われています。

子どもたちの明るい未来のため、そして私たち自身の成長のため、ともに歩み続けましょう。

貴会のご更なるご発展を祈念し、皆様方の今後益々のご活躍をご期待申し上げ祝辞といたします。

写真で見る県PTA研究大会(県大会)

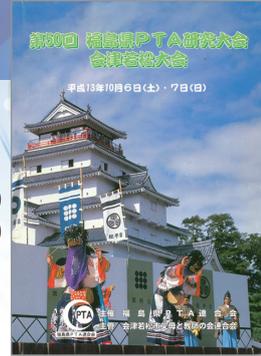
20年の歩み

(平成13年度～令和2年度)

第50回 会津若松大会

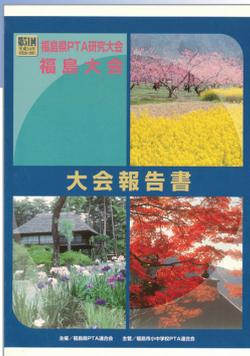
- 会期
平成13年
10月6日(土)
7日(日)

- 実行委員長
清川 雅史



第51回 福島大会

- 会期
平成14年
9月28日(土)
29日(日)
- 実行委員長
小松 良行



第52回 原町大会

- 会期
平成15年
10月4日(土)
5日(日)
- 実行委員長
但野 義和



第53回 須賀川大会

- 会期
平成16年
9月25日(土)
26日(日)
- 実行委員長
水野 武和



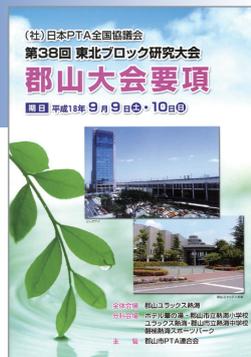
第54回 二本松大会

- 会期
平成17年
10月15日(土)
16日(日)
- 実行委員長
渡邊 守康



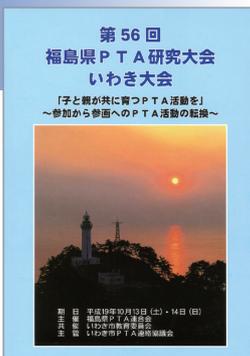
第55回 郡山大会

- 会期
平成18年
9月9日(土)
10日(日)
- 実行委員長
柳沼 俊光



第56回 いわき大会

- 会期
平成19年
10月13日(土)
14日(日)
- 実行委員長
根本紀太郎



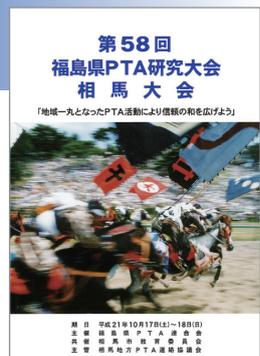
第57回 喜多方大会

- 会期
平成20年
10月19日(日)
- 実行委員長
榎内 秀司



第58回 相馬大会

- 会期
平成21年
10月17日(土)
18日(日)
- 実行委員長
森田 昌幸



第59回
白河大会



- 会期
平成22年
10月17日(日)
- 実行委員長
佐藤 厚潮

平成23年度は
東日本大震災
により
県大会中止

第60回
福島大会



- 会期
平成24年
10月14日(日)
- 実行委員長
小竹 晴彦

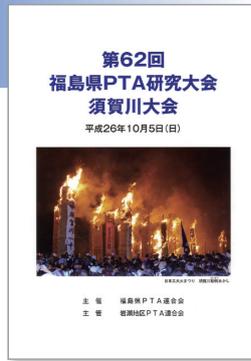
第61回
福島大会

第45回
日本PTA東北ブロック
研究大会福島大会



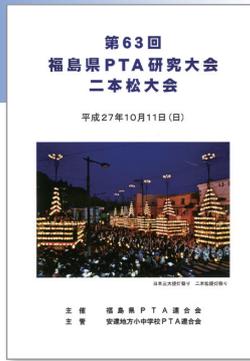
- 会期
平成25年
9月7日(土)
8日(日)
- 実行委員長
藤原 聡

第62回
須賀川大会



- 会期
平成26年
10月5日(日)
- 実行委員長
鈴木 辰也

第63回
二本松大会



- 会期
平成27年
10月11日(日)
- 実行委員長
出川 正人

第64回
郡山大会



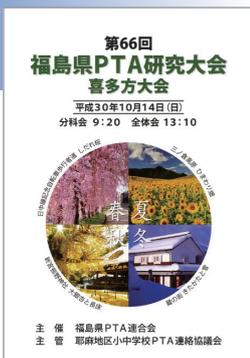
- 会期
平成28年
10月15日(土)
- 実行委員長
橘 文紀

第65回
いわき大会



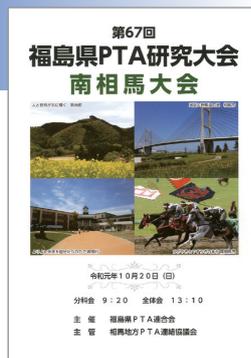
- 会期
平成29年
10月15日(日)
- 実行委員長
箱崎 洋一

第66回
喜多方大会



- 会期
平成30年
10月14日(日)
- 実行委員長
小林 裕子

第67回
南相馬大会



- 会期
令和元年
10月20日(日)
- 実行委員長
藤原 道夫

第68回
会津若松大会

第52回
日本PTA東北ブロック
研究大会会津若松大会



- 会期
令和2年
9月5日(土)
6日(日)
- 実行委員長
堀金 寿臣

歴代会長

～平成13年10月発行の
50周年記念誌から転載～



初代会長
故 小松 謙一氏
(昭和26年～30年)



二代会長
故 佐藤 実氏
(昭和31年～32年)



三代会長
故 佐藤 一氏
(昭和33年～35年)



四代会長
故 田中市太郎氏
(昭和36年)



五代会長
故 瀬戸 孝一氏
(昭和37年～43年)



六代会長
故 鈴木千代松氏
(昭和44年～45年)



七代会長
山田善五郎氏
(昭和46年)



八代会長
故 相川 清衛氏
(昭和47年～48年)



九代会長
故 永山 昇氏
(昭和49年～50年)



十代会長
渡部 英治氏
(昭和51年～52年)



十一代会長
石川 義一氏
(昭和53年)



十二代会長
菅野 久俊氏
(昭和54年～57年)



十三代会長
阿部 光寿氏
(昭和58年)



十四代会長
故 国井 庄八氏
(昭和59年～60年)



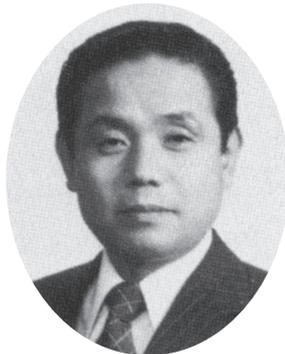
十五代会長
西條 善男氏
(昭和61年)



十六代会長
阿部 真樹氏
(昭和62年)



十七代会長
本田 文吾氏
(昭和63年)



十八代会長
齋藤 元氏
(平成元年)



十九代会長
櫻井 和朋氏
(平成2年～4年)



二十代会長
芳賀 裕氏
(平成5年)



二十一代會長
津野 英行氏
(平成6年)



二十二代会長
山岸 清氏
(平成7年～9年)



二十三代会長
早川 敬介氏
(平成10年～14年)

～平成13年10月発行の
50周年記念誌から転載～

歴代会長



二十四代会長
林 憲一氏
(平成15年)



二十五代会長
小松 良行氏
(平成16年)



二十六代会長
宮本 孝氏
(平成17年～18年)



二十七代会長
根本紀太郎氏
(平成19年)



二十八代会長
浪岡 真澄氏
(平成20年～21年)



二十九代会長
佐藤 辰夫氏
(平成22年～25年)



三十代会長
村上 和行氏
(平成26年～27年)



三十一代会長
小林 利明氏
(平成28年～29年)



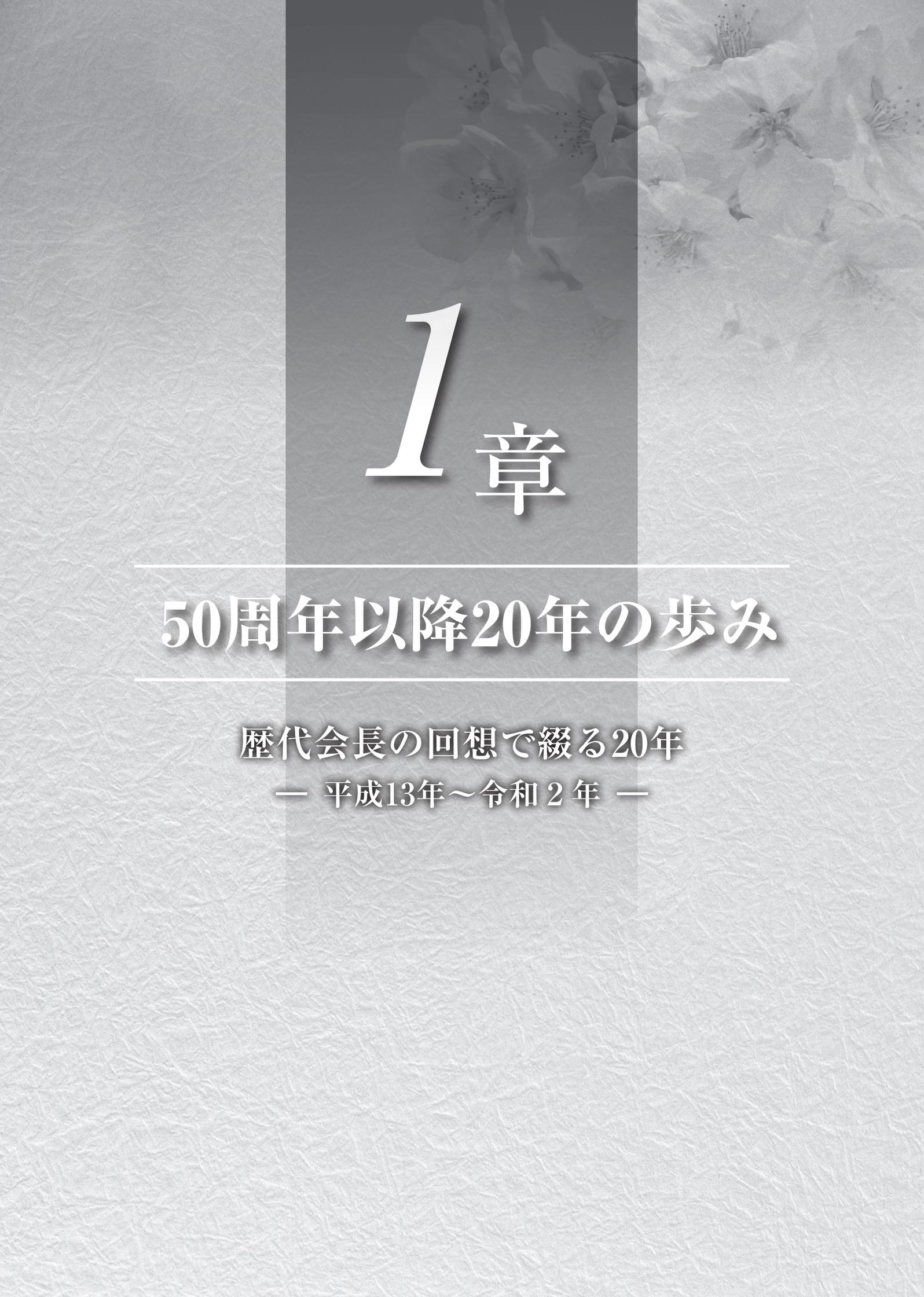
三十二代会長
誉田 憲孝氏
(平成30年)



三十三代会長
成澤 勝蔵氏
(令和元年)



三十四代会長
平塚 康晴氏
(令和2年～)



1章

50周年以降20年の歩み

歴代会長の回想で綴る20年

— 平成13年～令和2年 —



次世代を担う子どもと 保護者のための環境作りを

第23代会長 早川 敬介

在任期間
平成10年～平成14年

所属都市P連
郡山市PTA連合会

所属単P
郡山市立行健小学校
郡山市立行健中学校

1 会長就任時の抱負など

これまでの行健小学校父母と教師の会、郡山市PTA連合会や福島県PTA連合会での活動を通して、さまざまな職業の方々との交流は、自分の職業だけでは知りえない得がたい経験を拝聴することができました。そのような意見の中から将来への提言をし、また、提言し続けることで、少子化や完全学校週5日制実施への対応となる体制づくりができればと考えました。

2 思い出（エピソードなども含めて）

平成11年東北ブロック研究大会相馬大会では、東北では初めて養護教育の分科会を設けることができました。ノーマライゼーションを目指した行健小学校での障がいをもつPTA会員との交流の実績を発表させていただきました。

大会記念講演の講師は大石邦子先生でした。前夜大石先生を囲み、PTAへの思いなどを大会実行委員の方々と語り合いました。その際、ある実行委員夫人が大石先生のリハビリを担当された看護婦だったことがわかり、久々の出会いがありました。お二人とも大変感動した出会いでした。

大石先生の講演は、東北各地よりこられた参加者に大変感動を与えるもので、その後、秋田県や岩手県からも講演依頼がくるなど、各地でノーマライゼーションへ取り組まれる契機となったすばらしいものでした。

県P連の役員をされている方々は、各地区の会長であり、その地区のために十分貢献されている方々で、しかも将来を見据えた行動力のある方々です。私は、そのような方々と出会えたことは、得がたい経験として一生の宝として思いしております。

3 現在の会員（保護者）に望むこと

「PTAの役員は大変なので他人任せで」という傾向があるとされており、現在の子どもの置かれている状況を少しでもよりよい状況にしたいと思うのであれば、身近なところから親自らが行動・実践しなければなりません。子どもたちに親世代が手本を示すことで、子ども世代も将来行動・実践する大人になるのではないかと思います。

4 70周年に寄せる言葉

平成10年日本PTA全国協議会常務理事の時、文部省審議官に提言した「中学生のインターンシップ」は、新型コロナ禍で実践活動が出来ない状況ですが、義務教育の中で約40年関わる職業を真剣に考えた人生設計の出来る人材を育むことが必要で、少子化の進む我が国においては、次代の産業の担い手として、新しい産業の創造者として貴重な存在です。

国の教育目標である「教育文化立国」・「科学技術創造立国」は、教育現場だけでは出来ません。殆どの国々が同様な方向に向かって進んでおり、我が国は子どもの受け皿である家庭教育への関心度合いの高いことが必要であると思います。

また、研究大会には障害者に関する分科会を設けるなど、今取組まれているSDGsの先駆けを実践してきた実績もあります。

PTAはその時代・次代の課題を検討し、保護者へのアピールを含め、環境作りへの提言・実践を続けていくことが必要と思います。



子どもたちのために
親として そして人として

第24代会長 林 憲 一

在任期間	平成15年
所属郡市P連	会津若松市父母と教師の会連合会
所属単P	会津若松市立第二中学校

1 会長就任時の抱負など

前任の早川会長は5年間と長期にわたり会長を務められ、その間、日本PTAの専務理事、常務理事をも務められた偉大な方の後任として、また会津からの久しぶりの会長就任という事で責任の重大さを感じながら会長に就きました。

この年は、新学習指導要領の完全実施と完全学校週5日制の実施など教育界において大きな改革の年となりました。そうした状況の中での県PTA研究大会原町大会の開催と成功に向けて役員一丸となって奔走しました。

1年間の会長就任ということで何かをするというよりも良い形で次期会長に引き継ぐということが一番に考え、子どもたちの健全育成を目指してスタートしました。

2 思い出（エピソードなども含めて）

会長就任と同時に日本PTA、東北PTAに関わり、最初の日P常任幹事会に出席した時は雰囲気には圧倒され、早川前会長のエスコートなしではその場に居られなかった程緊張したのを覚えています。

東北Pにおいては各県連P、仙台市P協の会長さん達に大変お世話になり、特に日P会長の秋田の赤田会長には最初は雲の上の存在の方と思っていた方が大変気さくな方で、その後の日Pの会議にも緊張せずに出席することが出来ました。

翌年、会長を退任し東北Pむつ大会において受賞者代表として挨拶をさせていただきました。任期1年で会津出身の私が会津とゆかりのあるむつ市で挨拶できた事、大変な思い出となりました。

3 現在の会員（保護者）に望むこと

各単Pにおいて役員選出は大きな課題になっていることと思います。鶴城小PTA会長の時に全員参加型を導入しました。入学式当日、なかなか決まらず遅くまで学校に残った経験をされた方も多いと思います。私は学級において専門委員会以外の方は全員学級委員になっていただき何らかの形でPTA活動に関わる意識付けを求めました。多少の反発はありましたが現在も継続していると思います。

教育の基本は家庭にあると私は思います。保護者の皆様には様々な事情はあると思いますが、家庭の大切さを認識していただき、子どもたちの健やかな育成をお願いいたします。

4 70周年に寄せる言葉

子どもたちの健全育成は永遠のテーマであり、PTA組織もずっと続くものだと思います。単P同士そして郡市P連同士の連携はこれからも大切だと思いますが、何らかの形で地域の方々との交流が重要であると思います。地域の方々を巻き込んでの子どもたちの教育と健全育成を目指すPTAになってほしいと思います。



次代を担う児童生徒の しなやかな成長を願って

第25代会長 小松良行

在任期間

平成16年

所属郡市P連

福島市小中学校PTA連合会

所属単P

福島市立瀬上小学校

1 会長就任時の抱負など

平成13年度、県PTA連合会創立50周年の年に奇しくも福島市小中学校PTA連合会長及び県P副会長を拝命しておりました。母校であり単位PTA会長を務めていた福島市立瀬上小学校の創立100周年もこの年に記念事業が挙行され、翌14年度第51回研究大会は福島市で開催が予定されているなど、慶賀行事が続き多忙な日々だったと記憶しています。

また、この時期は、児童生徒を取り巻く環境は、家庭や地域社会の教育力低下が叫ばれる中で「ゆとり教育」、「完全学校週五日制」が施行され、受け皿となる地域住民・団体等の学校運営・教育活動への参画や学校評議員制度を如何に進めるかが課題となっており、私も地域との連携強化や教育力の向上に取り組むことを“時代の使命”と感じ努めておりました。

2 思い出（エピソードなども含めて）

当時、私は若干42歳で、親から受け継いだ託児所の法人認可や園舎建築にも奔走する日々であり、とても県P会長など務まるはずもない状況でした。しかし、事務局の皆さんや地区連P会長さんのあたたかいお支えがあって、一年の任期を大過なく送ることができたものと改めて感謝申し上げます。

また、男女共同参画社会の理念に基づき、市P連母親委員会の在り方を協議し、激論の末に解体。その後「家庭教育推進委員会」を創設したことは、家庭・学校・地域社会の連携とより良い家庭教育環境づくりに寄与することができたと考えており、ご理解ご協力を頂いた皆さんに心から御礼申し上げます。

3 現在の会員（保護者）に望むこと

2年間にも及ぶコロナ禍（新型コロナウイルス感染拡大防止対策期間）は、コミュニケーションと協働を柱とするPTA活動そのものに深刻な影響を及ぼすことになりました。一方、ICT化と人口減少が一層進むなど社会は急速かつ大きく変化しつつあります。こうした状況と未来を見据え、次代を担う児童生徒たちには、如何なる試練に見舞われても変革を受け入れて、しなやかに成長し続けてほしいと願う次第です。

そのためには、様々な困難から得た教訓をバネとし、教育資源を最大限に生かしながら、PTAが主体的に将来像を描き実現していかなければならないと考えており、教育関係者が一丸となって奮闘し、前進されることをご期待申し上げます。

4 70周年に寄せる言葉

顧みますと、17年もの月日が流れましたが、当時の日本PTA全国協議会の赤田英博会長（秋田県P会長）はじめ、山形、宮城、福島の東北P協議会交流は今なお継続し、福島市P連の仲間も様々な社会活動でご活躍をされており、生涯の友となっています。子どもたちの教育環境向上のために集い、語り合い、他のために汗を流したことは、「私たち自身の成長のため」でもあったのだと強く確信しておりますので、現役世代の皆様にも一層のご尽力を賜りたいと思います。

結びに、記念誌編纂に関わられた皆様へ感謝し、記念すべきこの年を節目に、未来を拓く子どもたちのため、福島県PTAの皆様の更なるご活躍とご発展を心からご祈念申し上げます。



多忙なれど得るものも多くあり

第26代会長 宮本 孝

在任期間	平成17年～平成18年
所属郡市P連	郡山市PTA連合会
所属単P	郡山立郡山第一中学校

1 会長就任時の抱負など

ちょうど郡山市を会場とする東北大会を控えており、私は東北大会の実行委員長として責任を持って準備を進めていくつもりでしたが、県の会長として大会を担うよう先輩方に説得され、急遽引き受けることになってしまいました。おかげで郡山市、福島県、東北の連合会長を兼ね、日本PTA全国協議会の理事や教育問題委員長など多数の肩書きを持つ多忙な日々を送ることとなりました。

まずは東北大会を成功させ福島県PTA連合会の様々な活動を東北の皆さんに知っていただく事、また教育環境向上のため自分たちのすべき事を実行することを目指しました。

2 思い出（エピソードなども含めて）

まずは東北大会の準備。そのため例年より連合会の集まりが多く単位会を越えた横の連携が出来、苦勞の中にも人との交わりが楽しい一年となりました。東北大会を成功させるため他県への働きかけも積極的に行ったので、他県の良い所を福島県の活動に生かすことが出来たし、東北6県の連携も強まった気がします

また一方では様々なトラブルもありました。特に宮崎での全国大会でメインの講演の講師に大会前日にドタキャンされ、その対応に追われた事は嫌な思い出ですが、それによりかえって全国PTAの結束が強まり、歩調を合わせて教育問題に向きあえるようになりました。

役員（特に郡山市の）数名で東北大会や全国大会などいろんな所に行き、いろんな経験が出来たことは良い勉強となり各地に良い友人を沢山得ることが出来ました。

3 現在の会員（保護者）に望むこと

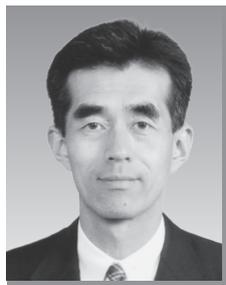
PTAは決して無償の奉仕ではなく、自分の益になる活動です。自分の子どもの教育に役立つ情報をいち早く手に入れることも出来るし、自らの学びの場でもあります。自分自身の社会的信用も得られるし、新たな人間関係も築けます。

もちろん我が子が通う学校の環境を少しでも良くする事が出来れば、子どもたちへ良い影響が有る事は間違いありません。

負担だとばかり思わず、自分の出来る範囲でPTA活動を行っていただきたいと願っています。少なくとも私は自分のためになった活動であったと思っています。

4 70周年に寄せる言葉

70周年おめでとうございます。それぞれの苦勞も多々あることとは思いますが、せっかくやるのだから楽しんで、子どもたちの未来のため、自分のスキルアップのために頑張ってください。



「やがてひとり立ちする
子どもたちのために」を基本に

第27代会長 根本 紀太郎

在任期間

平成19年

所属郡市P連

いわき市PTA連絡協議会

所属単P

いわき市立平第一中学校

1 会長就任時の抱負など

「PTA活動の主役である各単位PTAが、自校に誇りを持ち明るく活動できるようサポートするのが県PTA連合会の役割である」と考え、特に次の2点を実行しました。

- ① 「自校の自慢できることを教えて下さい」と各単Pに文書でお願いして回答いただく。
- ② 県P連の活動をより知っていただくため、広報紙「PTAふくしま」（年2回発行）を補完する手書き通信「あっぱれ！福島県P連」を4回作成。

2 思い出（エピソードなども含めて）

様々な思い出がありますが、特に印象的なのは次の2つでしょうか。

- ① 「第56回福島県PTA研究大会いわき大会」で上演された、桑山紀彦氏による「地球のステージ」。そこから受け取った「紛争・災害・貧困など困難な状況にある世界の子どもたちも、助けあい工夫して笑顔で力強く生きている」というメッセージは、今も忘れることができません。
- ② 各理事・事務局の方々と年度末に撮影した記念写真。

年度初めには活動に消極的だった方の提案で実現しましたので、一年間で好意的になって下さったことをとてもうれしく思いました。またそうなのは、各理事・事務局の方々の活動姿勢のおかげと感謝せずにはられません。今もその写真を大切にしています。

3 現在の会員（保護者）に望むこと

日常生活から学校行事・PTA活動などすべての面において、「やがてひとり立ちする子どもたち」のためには、「ここは子どもたちに任せて見守るほうがよい」のか「手助けするとしてもどのようにしたらよいのか」を考えていただければと思います。

4 70周年に寄せる言葉

県P連での活動（議論・研修・交流など）を通して、県内各地区の特色ある取組み・考え方などを知ることができ、地元での活動にも活かすことができました。これからも県内各地区・各単Pをつなげる場として、PTA活動を支えて下さることを願っています。



本会の歩みに 参加できたことに感謝

第28代会長 浪岡真澄

在任期間
平成20年～平成21年

所属郡市P連
福島市小中学校PTA連合会

所属単P
福島市立西信中学校

1 会長就任時の抱負など

私は典型的な仕事人間でした。子育ては母親任せ、子どもの教育など全く興味がありませんでした。ところが、いやいや引き受けた育成会の引率で子どもたちの素直さと目の輝きに触れ、私自身が、子どもたちから子育ての楽しさを教わりました。PTA活動では、働く社会人として子どもたちの授業に参加する機会をいただきました。また、子どもに迫る危険を防ぐための呼びかけに、即答で地域の見守り隊が出来ました。

市の連合会会長そして福島県PTAをお手伝いして最初に目に入ったのが、本会のテーマ「子と親とが共に育つPTA」、私が歩んできたものそのものでした。その体験を出来るだけ多くの保護者にも感じていただきたい、文字通りに親と子とがお互いに成長する会を目指しました。

2 思い出（エピソードなども含めて）

時代は、テレビゲーム、携帯電話が爆発的に普及してネット犯罪、ゲームに洗脳される、さらにはいじめの原因になるなどの問題が取り上げられ、メディアと子どもとの距離をどのように確保するか、頻繁に勉強会を開いていた記憶があります。また、食事の偏りが肥満や不登校の原因にもつながるとの専門家の指導を受けて食育（弁当の日）の推進に企業と連携して取り組みました。

そして東北PTAの同志と汗を流した日P全国大会宮城大会、また東北大会では、震災前の三陸の海をバックに家庭教育について研究を重ねたことなど、数々の思い出があります。

同期のメンバーとは、今でも交流が続いていることが自慢であり誇りでもあります。

3 現在の会員（保護者）に望むこと

今まで想像もしなかったコロナ禍や自然災害、また多様化する犯罪が家庭、学校、社会に大きな変化を起こしています。その中で子どもたちを守り育てるのは、経験したことのない大変な苦労だと思います。

今、私たち子育ての先輩は、地域の力となってPTAを見守っています。一緒に力を合わせて苦難に負けない強い子どもに育てましょう。

4 70周年に寄せる言葉

70年の会の運営と発展に尽力いただきました諸先輩、そして事務局の皆さんに心より感謝するとともに、さらなる未来への飛躍に期待いたします。そして微力ながら応援していきたいと思えます。70周年、誠におめでとうございます。



子どもたちの応援団

第29代会長 佐藤辰夫

在任期間
平成22年～平成25年

所属都市P連
郡山市PTA連合会

所属単P
郡山市立喜久田小学校

1 会長就任時の抱負など

社会環境の多様化に伴い、家庭や地域の教育力の低下が叫ばれて久しい時の就任でした。社会教育団体としてのPTAの役割の一つは子どもたちの応援団であり「家庭・学校・地域の連携と融合」を柱に会運営を進めました。会員の皆さんには「責任ある保護者として、プロの教師として、更にはより良い地域社会の一員として、それぞれが責任を押し付け合うのではなく義務と役割を果たしていくことの必要性」を伝えました。

2 思い出（エピソードなども含めて）

会長1年目の2011年3月に発生した東日本大震災、その後の原発事故では役員をはじめ関係機関と連絡がつかない中で情報も少なく苦勞したことが思い出されます。子どもたちの確認をするために、県内外の避難所へも何度も足を運びました。震災後に想いを強くしたのは、子どもたちの「生きる権利」「育つ権利」「学ぶ権利」の3つの権利でした。多くの子どもたちが避難を余儀なくされ不自由な生活を送っている状況を見た時に、この3つの権利を私たちの義務として次の2つの事業を実施しました。1つは自然災害・人災・風評さらには避難先でのいじめ・差別を受けている子どもたちを含め、笑顔を取り戻す為の「心のケア＝リフレッシュ事業」です。もう1つは「教育＝水俣交流事業」です。本県と同様に環境を破壊され様々な差別を受け続けている熊本県水俣市に学び、福島県の現状を把握し前進させる事業です。福島県・熊本県それぞれの中学生・県校長会・県教委・日Pを巻き込んだ本会としては前例のない大プロジェクトでした。最終目的は福島県の復興、郷土愛です。その為に「今の福島県を知る」「未来の福島県をどうしたいか」「そのためにはどのように行動すべきか」の3つのプログラムを子どもたちに課しました。2つの事業共に想像以上の成果が出たと思います。その頃私も日Pの副会長や専務理事を拝命し各省庁・各種団体の委員等に就任し、更には全国からの講演依頼を受け福島県を発信し続けました。当時は「出来るか、出来ないか」ではなく「やるか、やらないか」の判断でした。異常事態の4年間でした。役員、事務局はじめ関係者の皆様には大変なご苦勞をおかけしたことに感謝しかありません。

ありがとうございました。

3 現在の会員（保護者）に望むこと

自身の子どもを様々な角度から見て関心を持っていただきたい。そして子どもの環境に課題があれば立ち向かって欲しいと思います。一人で難しい時はPTAと一緒に解決をしてください。PTAは様々な職業、考え、知恵の詰まったプロ集団です。多くのことが出来ます。子どもたちに一番近い応援団、それがPTAです。

4 70周年に寄せる言葉

子どもを想う一人一人の行動が集結し、PTAとして70年の歴史をつなぎました。

課題、想いは時と共に変化を続けていますが基本は何も変わりません。子どもたちの未来、夢実現です。福島県PTA連合会の更なる発展と会員の皆様のご活躍を願っています。



すべては子どもたちのために

第30代会長 村上 和行

在任期間

平成26年～平成27年

所属郡市P連

田村地方PTA連合会

所属単P

小野町立小野中学校

1 会長就任時の抱負など

私が会長に就任の頃は東日本大震災のあと、県内の子どもたちが大変な思いをしていた頃でした。それまでの日本は、安心安全、平和な国で、命の危険から逃れるような場面はない国でありました。自分自身が不安の中、不安がる家族を何とか宥めて、やっとたどり着いた目的地、そうしたらここでは駄目だから別の所へ行くようにと言われる。「一体どこへ行けばいいんだ」と思わず大きな声を出す。そんな経験を私たちはしたのです。

そんな中、一番の被害者は小さな子どもたち。私は、そんな子どもたちに何かしてあげなければと思っていました。そこに温かい手当てをと願っていました。

2 思い出（エピソードなども含めて）

私が初めて県Pの会議に出た時、当時の県P会長さんの言葉、「それぞれの人がいろんな所でいろんな人に頭を下げ都合をつけての参加かと思います。誠に頭の下がる思いです。ご苦労様です。」田村地方P連の会長として校長先生と共に初めて臨んだ評議員会。思えばこれが県Pの私の始まりでありました。後に、年度初めの会議で、私も使わせてもらった覚えがあります。

3 現在の会員（保護者）に望むこと

子どもは、磨けば光る宝石の原石であります。ただ、いつ輝き出すかは分かりません。明日なのか、5年後なのか10年後なのか。私たち「親」は、いつか必ず輝き出すことを信じて磨き続けます。根気強く諦めずに続けていくことが大事です。親が我が子を諦めてしまったら、輝き出す可能性さえも無くしてしまいます。少子化と言われる今、後に続く人材育成という面からも皆で協力して続けていくことが大事です。

安心して暮らしていける社会を創るためにも、共に頑張りましょう。PTAは、そんな考えに沿う組織だと思っています。

4 70周年に寄せる言葉

「日本PTA全国協議会は、永遠に不滅です。この歴史と伝統のある組織はこれからも長い歩み続ける事でありましょう。そんな組織の今を、一時期を携わることができて大変光栄であります。全国の皆さんと知り合いになれましたこと、私の大変大きな財産であります。それでは本日お集まりの皆様が健康でありますように、今後ますますご活躍されますことを祈願させていただきます乾杯といたします。」

これは、私が日Pの懇親会で乾杯のあいさつをした時のものです。これを県Pの皆さんにも申しあげたい。70年を迎え、100年、それ以上を歩むことでしょう。複雑化が進む、子どもたちの進路を明確に示していけますように。



変わりゆく時代とともに 「為に生きる！」こと

第31代会長 小林利明

在任期間
平成28年～平成29年

所属郡市P連
いわき市PTA連絡協議会

所属単P
いわき市立小名浜第一中学校

1 会長就任時の抱負など

振り返りますと私のPTA活動は20年になります。それまでいわき市の会長、県の副会長と経験してきましたが、さすがに県の会長となると戸惑いはありました。そんな中、当時の県Pの皆さんから背中を押され就任を決意しました。

会員一人一人がPTA活動に参加しやすい雰囲気づくりを目指すとともに、ネット社会の危険性から子どもを守るため、ネットモラルキャラバン隊を招き、会員の啓発活動に努力しました。

また、県P連の組織改革を図り、男女共生社会に対応し、女性役員の積極的な参加を促すために、副会長職に女性枠を取り入れました。

会長就任挨拶では、“役員の皆さんの積極的な活動姿勢が、たくさんの笑顔を生みだす明るく楽しいPTA活動につながる”ということをお願いしました

2 思い出（エピソードなども含めて）

5年間続いた「福島・水俣交流事業」は今でも私の心の中にあります。私自身は、4年間、事業に携わらせていただきましたが、最後にあの生徒たちの輪の中に居られたことをうれしく思います。

日P理事の時に“チャレンジ”を合言葉に行った渡嘉敷村での国内研修事業も忘れることのできない1ページでした。どちらの事業においても最後に流した子どもたちの涙は頑張った成長の証だと確信しています。

一方で震災の時の原発事故の影響で双葉郡の小中学校が再開できないことに心を痛めました。福島県の現状を全国に理解してもらうために、日本PTAにお声掛けし、役員・理事による「福島第一原子力発電所視察」を企画・実行して風評被害払拭や復興への取り組みを積極的に発信するよう努めました。

支えていただいたすべての皆様に感謝いたします。

3 現在の会員（保護者）に望むこと

いつの時代も子どもたちが誇りを持ち、夢を持ち、将来に希望と自信を持てる教育環境を作っておくことが親の役目だと思います。

子どもの「夢や目標」は、もしかするとその時々で変わることはあるかも知れませんが、常にそのことを持つことが必要なのです。時間は戻ることはいし、どんなにつらい日があっても必ず次の朝は来ます！

保護者の皆さん、一分一秒を無駄にすることなく、今後も子どもと向き合ってください。どうぞよろしく願いいたします。

4 70周年に寄せる言葉

福島県PTA連合会が70周年を迎えられましたこと、誠におめでとうございませう。

これまでたゆみない努力により教育環境の整備や子どもたちの安全・安心を築き上げ、今日までその活動を引き継ぎ、支え、見守ってこられた先輩方、関係諸氏に敬意と感謝を申し上げます。

皆様におかれましては現在のコロナ禍の中、様々な面でご苦勞をされていると思われまますが、本年を機にもう一度原点に立ち返り、子どもたちの健全育成に努め、社会教育の振興と家庭教育の質の向上を目指し、今後も真摯にPTA活動に取り組まれること願っております。



心ひとつに、未来への一步

第32代会長 誉田 憲孝

在任期間

平成30年

所属郡市 P 連

福島市小中学校 PTA連合会

所属単 P

福島市立福島第三中学校

1 会長就任時の抱負など

平成から令和の新時代に移りゆく中、インターネット・スマホの急速な普及によりSNS等に起因するトラブルやいじめ問題への対応など、困難な課題が増加し、家庭・学校・地域のかけ橋としてPTAの存在意義が高まっていました。その一方で、会員数減少や、活動に伴う負担等、PTAとしての在り方を見つめなおす時期にあったように感じます。連合会においても、環境や体制を整えていく重要なタイミングにあり、予算検討委員会を立ち上げ、今後に向けた基礎固めの年としました。

日本PTAとの連携強化、郡市P連のサポート、そして会員の皆様にわかりやすい県Pを推進できるよう、活力と個性にあふれる本部の役員や事務局の方々、そして各地区代表の理事の皆様とともに、心ひとつに前向きで元気に活動することを目指しました。

2 思い出（エピソードなども含めて）

県大会喜多方大会では耶麻地区の皆様（実行委員会）にお世話になりました。開会前、緞帳があがると壇上にいた私たちにはラーメンの香りが届き、実行委員長と「あれ？」と顔を見合わせました。参加する仲間とおいしいラーメンを食べ、楽しく親睦を深めてきたのだろう、と想像し嬉しい心になりました。子どもたちのためには、やはり大人同士が明るく、元気に、楽しく活動することが理想であり、すべての出発点であると改めて強く思いました。

県内の活動だけでなく、被災3県の子どもたちを対象とした『スノーキャンプin北海道』や『防災交流事業in松島自然の家』、『大阪スマホサミット』等に参加し、他地区の方と共に実のある時間を過ごさせていただき、同じ目的を持つ大人同士が集い、何かを成し遂げることの素晴らしさを実感する機会となりました。

PTA活動で出会い、共に汗をかいた仲間たちとの友情は私の宝です。

すべての皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

3 現在の会員（保護者）に望むこと

PTAは、家庭環境や職業等、価値観の違う人たちが集います。

しかしながら、子どもたちを愛する想いは一緒です。愛する想いと、何かをしてあげたい気持ちは、一緒です。

心ひとつに目的に向かって何かを成し遂げようとする努力こそが、子どもたちに見せるべき姿ではないでしょうか。現在、新型コロナウイルスにより、活動の形も変わってきていますが、保護者と教職員とで励ましあい、楽しみながら、笑顔いっぱいのPTA活動を行ってみてください。子どもたちの未来への一步を後押しすることにつながるだけでなく、その先には親として、人としての成長も待っています。

4 70周年に寄せる言葉

歴史と伝統を大切にしながら、県Pの活動が70年にわたり途絶えることなく、ここまで続いてきた理由は、会員の皆様が、愛する子どもたちのために何かを成そうとする想いが続いてきたことにほかなりません。時代は常に変化していくものですが、子どもたちへの愛情と健やかな成長を願う気持ちは変わらず続いていきます。

今後の福島県PTA連合会のさらなる発展と、関わる皆様のご活躍、そして何よりも未来を力強く切り拓いていく子どもたちの健やかな成長を心からご祈念申し上げます。



異例づくしの1年間

第33代会長 成澤勝蔵

在任期間

令和元年

所属郡市P連

会津若松市父母と教師の会連合会

所属単P

会津若松市立第四中学校

1 会長就任時の抱負など

会長就任時、本当に私でいいのか？会長職が務まるのか不安ではありましたが、顧問の方をはじめ、役員、事務局の方々に支えられ、至らない点もあったと思いますがなんとか1年間務めることができました。

その頃は、PTA不要論がネット上で言われており、PTAの目的を正しく理解してもらうこと、時代の変化に応じて求められるPTA活動の取り組みをするために、地域・学校・保護者間でのコミュニケーションを図ることを伝えていきたいと考えていました。

2 思い出（エピソードなども含めて）

当初は例年通りの活動計画で大きな問題もなく進めていましたが、県研究大会南相馬大会が台風19号とその後の豪雨災害により中止となってしまい、多くの会員の皆さまと交流し学ぶ場がなくなってしまったことが残念でした。また、年度末には新型コロナウイルスの影響により集まることすら出来なくなり、その対応を模索する中、翌年の東北ブロック研究大会会津若松大会も中止の判断をせざるを得なかったことも重ね重ね残念でなりませんでした。

苦労も多かったですが、会長を務めたことにより県内をはじめ東北や全国のPTAに携わる方々と知り合え、交流できたことは自分にとってとても貴重な経験となりました。

3 現在の会員（保護者）に望むこと

以前の私は学校のことに無関心な親でしたが、学校・学年行事などのイベントに見学・参加し、必要とされ手伝ううちに少しずつ関心を持つようになりました。多様な時代ですべてのPTA活動に参加するのは難しい方もおられると思います。義務教育の9年間は長いようでもすぐに過ぎてしまうもので、今しかできないことを自分の出来る範囲で協力しながら、他の会員の方々や学校の先生方とコミュニケーションをとって頂けたら子どもたちのためにもなるかと思えます。

4 70周年に寄せる言葉

福島県PTA連合会創立70周年にあたり、謹んでお祝いを申し上げます。

長年にわたり子どもたちへの健全育成につながる活動をしてこられたのも、会員の皆さまのご協力があったことに感謝申し上げます。

役員の皆様におかれましては、これからも単位PTA、各郡市PTA連合会の力となれるよう、研究大会、教育講演会、行政への要望活動等に一致団結し困難な状況でも新たな手法・手段で乗り切ってください。

今後のさらなるご発展とご活躍を心からご祈念申し上げます。



温故知新

第34代会長 平塚 康晴

在任期間

令和2年～

所属郡市P連

郡山市PTA連合会

所属単P

郡山市立赤木小学校

1 会長就任時の抱負など

令和3年度に福島県PTA連合会創立70周年記念行事があり、その準備も含め令和2年度より就任いたしました。新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため集まった活動に制限があり、各郡市連Pの活動はもちろん各単Pの活動もできない状況の中、子どもたちのためにどうしたらよいか悩みながらの活動でした。どのような状況でも私たちの活動の情報発信を続けること、そして各郡市連Pとの横のつながりを重視し共に活動することを心掛けております。様々な問題がありますが「誰のために活動するのか？」を常に考え、学校・家庭・地域の連携ができるよう努力したいと考えております。

2 思い出（エピソードなども含めて）

令和2年度のはじめはすべてが中止前提で話を進めることしかできず、その年に予定されていた「日本PTA東北ブロック研究大会会津若松大会」が中止となり実行委員会の皆様の心中は断腸の思いだったと思います。その後徐々にオンラインによる会議等ができるようになり新しい情報交換のあり方が模索されていきました。日本PTA全国協議会や東北ブロックPTA連絡協議会の会議もオンラインによる会議が主流となり、研究大会等もオンラインによる開催が行われ今後の課題に向けての方法として学ぶことになりました。

令和3年度になり福島県PTA研究大会福島大会がどのようにしたら開催できるかを実行委員会の皆様と共に協議し、令和元年度の南相馬大会と昨年の会津若松大会の思いをつないでオンラインによる開催ができたこと、そして福島県PTA連合会創立70周年記念事業も併せて開催できたことに本当に良かったと思っております。

3 現在の会員（保護者）に望むこと

私も保護者の一人としてまだまだ勉強不足なところが多くあります。各単Pでも学校行事や奉仕活動など様々な活動がありますので、お子さんと一緒に活動しながら他の保護者の皆様とも楽しくできればと思います。親が子どもの授業参観や活動している姿を見て感じることも教育の一環と考えます。子どもたちの成長を一緒に見守り、共に頑張りましょう。

4 70周年に寄せる言葉

昭和26年社会教育関係団体として発足した本会は、研究大会や研修等の交流活動を通して会員相互の結束を深めながら子どもたちの健全育成を図ることを目的に活動してまいりました。この70年の歴史を諸先輩方が築き上げてきた伝統をしっかりと受け継ぎ、学びながら時代に合わせた対応をしなければならぬと思います。コロナ禍の中で様々な局面を迎えている最中であり、まだまだ収束するまでは時間がかかると思われま。次の時代へ私たちの活動が繋がるとを願いながら皆様と一緒に努力を続けていきたいと思っております。

P T A の 歌

春日紅路・作詞／西條八十・補作詞／古関裕而・作曲／宮本 一・編曲



1. 春風そよそよ 吹く窓に
小鳥もくるくる とんで来る
明るい窓よ ほほえむ顔よ
さくらの花咲く 春の唄
みんなでいっしよに うたおうよ
2. みどりに輝く 学校が
明るい家庭を よんでいる
希望の町よ 希望の村よ
文化の光に 手をのべて
子どもといっしよに 進もうよ
3. あふれる力に 健康に
子どもがよんでる おどってる
みよりの秋よ もみじの丘よ
こころも楽しいハイキング
子どもといっしよに おどろうよ
4. 世界を結んだ 大空に
ひびいて子どもの 胸が鳴る
あしたの鐘よ 夕べの鐘よ
平和で住みよい 日本を
みんなでいっしよに つくろうよ